

洞爺湖芸術館 4月1日 オープン

旧洞爺村役場を改修し完成させた洞爺湖芸術館のオープニングセレモニーが、3月25日、同館の前庭で行われました。

「洞爺村国際ビエンナーレ」の作品、彫刻家砂澤ビックさんの木彫作品、写真家並河萬里さんの作品の他、三島由紀夫や谷崎潤一郎のサイン入り初版本などの貴重な文学作品が展示されています。

式典では、長崎町長が「自然豊かな洞爺湖のそばに開館できることをうれしく思います。この開館を機に町民と一しょに芸術と文化の振興に尽くしたい」と挨拶。

このあと来賓者が、テープカットを行いオープンを祝いました。

観覧料は、一般300円、高校生200円、小中学生100円。休館は月曜日。



完成を祝ってテープカットする来賓者ら

洞 爺湖町大原では、今からおよそ20、000年前の旧石器時代の石器が見つかっています。遺跡は標高300mほどの高台にあつて、羊蹄山や洞爺湖を望むとても眺めのよいところにあります。また、この周辺は、明治20年に三橋政之をはじめとする移住団が開墾のクワを初めて下ろした地でもあります。

「原始人」のイメージが強まると思いますが、実はそうではあ

500万年といわれる人類の歴史の中で、いろいろな知識や経験が培われて、次の縄文時代に引き継がれていきます。

シリーズ

縄文人の心と文化

～自然との共生を探る～

教育委員会 学芸員 角田 隆 志



遺跡の近くには大原川が流れています。20、000年前の地形は今とは大きく違うのでしようが、やはり近くには川があったと考えられます。この川は自分たちの飲み水として使うのはもちろん、食料となる動物たちの飲み水でもあったのです。ここから獲物を獲るための石器が見つかるということは、動物たちを追って、ヒトもまたこの地に足を踏み入れたということ

りません。大原遺跡の石器の作り方をみると、幅1cmほどのカミソリのような石器(細石刃)が必要だ。なのに、その段階として大人の手のひらくらいの大きな石全体の形を念入りに整えていきます。これほどの作業をするのには、大変な時間と労力、そして何より知識を必要とします。



大原遺跡から出土した石器
＝細石刃核(矢野貞信氏蔵)

CO₂大幅削減 温泉排水の熱を利用する システム完成

このシステムは、従来重油で48度～50度に加温して供給していたのを、35度前後の温泉の排水熱を利用して加温するもので、年間燃料代が約3、000万円抑えられ、二酸化炭素も1、700トンの削減が見込めます。環境にやさしい取り組みとして、全国の温泉地からも注目を集めています。

洞 爺湖温泉利用共同組合(川南明則理事長)は、導入を目指してきた重油ボイラーに代わり、温泉の排水熱を利用して熱エネルギーに変えるヒートポンプシステムの完成を祝い、3月7日現地見学会と竣工式・記念式典を開きました。



完成を祝う竣工式・記念式典

「洞爺湖町非核平和の町宣言」決議を可決

第 1 洞爺湖町議会定例会最終日の3月19日、洞爺湖町非核平和の町宣言「決議案」が可決されました。

決議の内容は、2008年北海道洞爺湖サミットの開催年を迎えるにあたり、私たちは、核

兵器を「持たず・つくらず・持ち込ませず」の非核三原則を守り、恒久平和の実現を願って、ここに「洞爺湖町非核平和の町宣言」をするものである」としています。